



ちくぶしま 竹生島ってどんな島？



湖岸から約6kmにあり、周囲の長さは約2km、琵琶湖八景に数えられています。「竹生島」という名前は、「神をいつく島（神様につかえる島）」に由来します。「いつくしま」が「つくぶすま」と変わり、「竹生島」となりました。昔から寺や神社が建てられ、毎年たくさんの人たちがお参りにやって来ます。



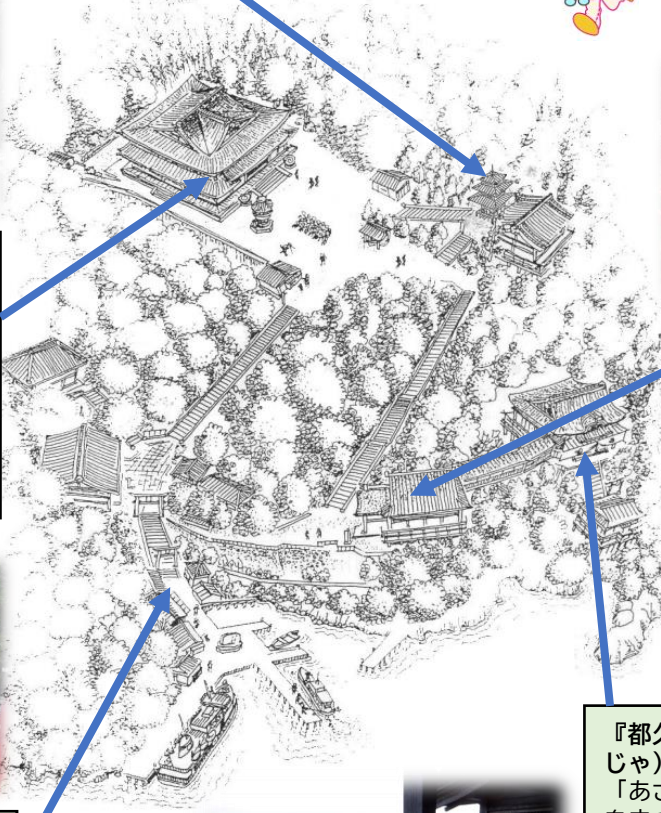
地図出典：国土地理院



『三重塔（さんじゅうのとう）』
平成12年に再建されました。お釈迦（しゃか）様の遺骨（いこつ）をおさめているといわれています。



竹生島は、「カワウ」という鳥の国内有数のすみかです。カワウは増えすぎると、フンの影響（えいきょう）で竹生島の木々を枯（か）らしてしまいます。現在は、カワウを捕（つか）まえたり、木を植えたりして竹生島の自然を取り戻す取組が行われています。



『弁才天堂（べんざいてんどう）』
宝厳寺の中にあるお堂で、168段の階段を登り切ったところにあります。「弁天さん」として親しまれている水と音楽の神様がまつられています。



『観音堂（かんのんどう）』
重要文化財（じゅうようぶんかざい）となっています。豊臣秀吉の息子、秀頼（ひでより）の命令（めいれい）により、京都から移動し再建築（さいけんちく）されました。



『宝厳寺（ほうごんじ）』
約1300年前の奈良時代に聖武天皇（しょうむてんのう）によって建てられました。



『都久夫須麻神社（つくぶすまじんじゃ）』
「あざいひめのみこと（浅井岳）」をまつている神社で現在の建物は火災の影響で1567年に建て直されました。「かわらけ」という小さな皿に名前と願い事を書いて投げる「かわらけ投げ」ができ、鳥居（とりい）をくぐると願いがかなうと言い伝えられています。